

障がいのある子どもたちと保護者のために 居場所をつくり“自立”を支援したい

株式会社 スキップウィズエブリワン

茨城県下妻市下妻丙 413 番地 2 サンハイム A203
URL : <https://www.skipwitheveryone.com/>

放課後等デイサービス事業 ウィズしもつま

茨城県下妻市原 887 番地 5



代表取締役 齋藤 大樹

肢体不自由児を主な対象にした放課後等デイサービス「ウィズしもつま」を運営する「スキップウィズエブリワン」。事業をスタートしたのは2021年4月で、子どもたちと保護者双方の支えになるべく、齋藤社長を筆頭に情熱を持って施設作りに尽力中だ。本日は俳優の村野武範氏が訪問し、社長にお話を伺った。

——齋藤社長は、いつから福祉業界にいらつしやるのですか。

大学卒業後にこの業界に入って、ずっとこの道一筋です。最初に勤めたのは、障がいをお持ちの大人の方を対象にした施設でした。重度の障がいをお持ちの方が多く、相手に危害を加えてしまったり自傷行為をしたりという方が多かったのですが、その中で「子どものうちから療育を受ければ、もっと良い方向に進む可能性もあるかもしれない」と思うようになりまして。それで、次は子どもたちと関わっていききたいと、放課後等デイサービスに転職したんです。

——そちらで経験を積み、「ウィズしもつま」さんの立ち上げにつながるわけですね。

はい。勤務時代に日々子どもたちと接する中で、「もっと役に立てることがあるはずだ」と、徐々に自分が理想とするデイサービスのカタチが見えてきたんです。勤めている以上はその事業所の方針に従う必要がありますが、自分が思う方法で子どもや親御さんのことを支えていきたいという気持ちが強くなったので、8年ほど勤めて独立を決断しました。今年の春にスタートしたばかりなので、まだまだこれからといったところですね。

——それだけ、このお仕事に対する思いが

強かったわけだ。それでは、社長が目指されているデイサービスがどんなものか、お聞かせいただけますか。

私共では、肢体不自由のお子様を中心に放課後等デイサービスを提供しています。小学校1年生から高校3年生までが対象なので、関わるのは子どもたちの人生のほんの一時期です。ですが親御さんは、一生子どもたちのことを考え続けていかなければなりませんよね。その中で、親御さんの相談窓口としての役割を果たすことも重要だと考えています。子どもが一番の支援者は、私たちではなく親御さん。私たちはあくまでそのお手伝いをする立場です。お子さんと親御さんの、双方の居場所となれる事業所が目指すところですね。その上で、子どもたちそれぞれの可能性を伸ばせるよう取り組んでいます。

——そのようなお考えなら、親御さんも心強いですよ。子どもの可能性を伸ばす、という点においてはどのような工夫を？

年齢や性格、障がいの程度、将来の希望を考慮して、個々に合わせたプログラムを組んでいます。遊びの要素をプラスしながらそれぞれの長所を伸ばし、成功体験をして自己肯定感を高められるような支援を心がけています。福祉施設では、子どもに対して「自立できるように」という表現をよく使います。しかしこの自立について、私は「何でも1人でできるようにすること」とは考えていません。誰でも、何でも完璧にできるわけではないんです。周りの支援を上手く受けられること、社会資源を活用して能力を伸ばすこと、それが自立だと考えます。私共は、その自立のために利用していただける場所でありたいんです。



——子どもたちに寄り添っていますね。利用する皆さんも勇気が出ると思います。今後の夢や目標については、いかがですか。

まずは今の事業所を軌道に乗せること。その上で、さらに事業所数を増やしていきたいですね。また、放課後等デイサービスを卒業していく子どもたちのためにも、大人を対象にした生活介護事業所やグループホームなど、他の福祉施設の運営にも取り組んでいきたいと思っています。

after the interview



「人々を支えるだけでなく自分も支えられている」齋藤社長。一方的ではなく、支え支えられることが福祉の本質なのでしょうね。優しく、温かいお人柄の中に、お仕事への情熱が感じられました！」

村野 武範 (俳優)